

生体の科学

SEITAI NO KAGAKU

Vol.70 No.5 — 2019 Sep. - Oct. 目次

[増大特集] 現代医学・生物学の先駆者たち

特集「現代医学・生物学の先駆者たち」によせて 編集委員一同 363

I. 解剖学・発生学・細胞生物学

- 石川春律 (1935-2008) ——日本の細胞生物学の父 月田早智子・白倉治郎 364
- 井上信也 (1921-) ——シンヤスコープの発明 馬淵一誠 366
- 大野乾 (1928-2000) ——洞察の巨人・論考の達人 森 望 368
- 岡田節人 (1927-2017) ——「研究者には余裕がないとアカンのヤ」 高橋淑子 370
- 岡田善雄 (1928-2008) ——細胞融合現象の発見から細胞工学へ 目加田英輔 372
- 垣内史朗 (1929-1984)
- 細胞内カルシウムメディエーター (カルモデュリン) の研究 祖父江憲治 374
- 笹井芳樹 (1962-2014) ——発生生物学と再生医学の融合研究 河崎洋志 376
- 下村脩 (1928-2018) ——下村脩博士とオワンクラゲ 宮脇敦史 378
- 月田承一郎 (1953-2005) ——徹底的に形態学を利用した分子生物学 古瀬幹夫 380
- 藤田恒夫 (1929-2012) ——多彩な解剖学者 牛木辰男・岩永敏彦 382
- 増井禎夫 (1931-) ——細胞周期研究をブレイクさせた発生学者 岸本健雄 384
- 山田致知 (1922-1994)
- 肉眼解剖学の新境地の開拓と献体活動の近代化に尽力 熊木克治 386

II. 生化学・遺伝学

- 新井賢一 (1942-2018)
- 酵素化学から免疫学へ: A global advocate for science 宮島 篤 388
- 今堀和友 (1920-2016) ——ホップステップジャンプ 高崎洋三 390
- 岡崎令治 (1930-1975) ——DNA 不連続合成機構の解明 吉川 寛 392
- 上代淑人 (1929-2011) ——GTP 結合タンパク質の研究 佐藤孝哉 394
- 木村資生 (1924-1994) ——分子進化の中立説 五條堀 孝 396
- 西塚泰美 (1932-2004) ——プロテインキナーゼ C の発見 高井義美 398
- 早石修 (1920-2015) ——生化学の巨人 成宮 周 400
- 藤澤仁 (1936-2007) ——生化学の王道を行く 石田敦彦 402
- 丸山工作 (1930-2013) ——筋収縮構造タンパク質の研究 大日方 昂 404
- 三浦謹一郎 (1931-2009) ——RNA の研究からタンパク質工学への展開 鈴木 勉 406
- 山川民夫 (1921-2018) ——先天性代謝異常を化学の目から解き明かす 脊山洋右 408
- 由良隆 (1929-) ——熱ショック応答とタンパク質恒常性制御 伊藤維昭 410

III. 細菌学・ウイルス学・免疫学

- 石坂公成 (1925-2018) ——IgE の発見とアレルギー研究への貢献 高津聖志 412
- 高橋理明 (1928-2013) ——水痘ワクチンの開発 山西弘一 414
- 多田富雄 (1934-2010) ——サプレッサー T 細胞 奥村 康 416
- 野本明男 (1946-2014) ——ポリオウイルス病原性研究の開拓者 小池 智 418
- 日沼頼夫 (1925-2015) ——ヒトがんウイルスの探究 菅村和夫 420
- 掘越弘毅 (1932-2016) ——極限環境微生物研究の開拓者 伊藤政博 422
- 光岡知足 (1930-) ——腸内細菌学のパイオニア, その業績と哲学 中山雅晴 424

IV. 病理学・腫瘍学

- 伊東信行 (1928-2010) ——環境化学物質の発がん性 高橋 智 426
- 菅野晴夫 (1925-2016) ——卓越した日本がん研究のリーダー 北川知行 428
- 鶴尾隆 (1943-2008) ——がん化学療法の研究 清宮啓之 430
- 花房秀三郎 (1929-2009) ——オンコレトロウイルスの研究 松田道行 432

平野朝雄 (1926-2019) —— 神経病理学に魅せられて	水澤英洋	434
廣橋説雄 (1949-2016) —— 多段階発がん細胞接着分子異常の分子病理学	坂元亨宇	436
V. 生理学・薬理学・生物物理学		
江橋節郎 (1922-2006) —— カルシウム時代の幕開け	遠藤 實	438
大沢文夫 (1922-2019) —— Loose Coupling と生きものらしさ	柳田敏雄	440
高橋國太郎 (1935-2011)		
—— ネコ錘体路細胞からホヤ神経細胞へ：進化を遡る研究	岡本治正	442
殿村雄治 (1923-1982) —— ATP エネルギー変換機構	宮田真人・荒田敏昭	444
眞崎知生 (1934-) —— 骨格筋研究から血管研究の創成へ	沢村達也	446
松尾壽之 (1928-) —— 生理活性ペプチドの研究	中里雅光	448
VI. 神経科学		
伊藤正男 (1928-2018) —— 小脳研究	永雄総一	450
大塚正徳 (1929-) —— 神経伝達物質の発見	鈴木秀典	452
小野武年 (1938-)		
—— 「情動・記憶のしくみとはたらき」に関する先駆的研究	西条寿夫	454
小西正一 (1933-) —— 音声学習と音源定位の神経基盤	渡邊 大	456
佐野勇 (1924-1975) —— 精神神経医学に神経化学の光を当てた医学者	佐野 輝	458
塚原伸晃 (1933-1985) —— 脳の可塑性研究の開拓者	村上富士夫	460
富田恒男 (1908-1991)		
—— 錐体視細胞の細胞内記録による三色説の生理学的確立	金子章道	462
沼正作 (1929-1992) —— イオンチャネル・レセプターの構造と機能	田邊 勉	464
萩原生長 (1922-1989) —— 驚異的な洞察力と多方面にわたる貢献	飯島敏夫	466
藤田哲也 (1931-) —— 脳の発生モデルとがんの自然史モデル	高松哲郎	468
松本元 (1940-2003) —— 非線形非平衡システムとしての脳	合原一幸	470
VII. 臨床医学		
川崎富作 (1925-) —— 川崎病発見の奇跡的偉業	濱岡建城	472
菊池昌弘 (1934-2012) —— 菊池-藤本病の研究	竹下盛重	474
高尾篤良 (1925-2006) —— 染色体 22q11 欠失症候群の発見	門間和夫	476
高月清 (1930-) —— 成人 T 細胞白血病とヒトレトロウイルスの発見	高折晃史	478
垂井清一郎 (1927-) —— 垂井病 (Tarui disease) の研究	岩橋博見・下村伊一郎	480
平山恵造 (1929-) —— 『神経症候学』の出版と“平山病”の発見	河村 満・菊池雷太	482
福山幸夫 (1928-2014) —— 福山型先天性筋ジストロフィーの発見	戸田達史	484